

令和 7 年度塩竈市水道事業報告書

1 概 況

(1) 総括事項

イ. 給水状況

本年度の年間総配水量は、大倉ダム水系 5,628,445 m³及び仙南・仙塩広域水道用水供給事業からの受水量 1,022,016 m³の合計 6,650,461 m³（18,220 m³/日）で、前年度 6,857,533 m³（18,788 m³/日）と比較して 207,072 m³（568 m³/日）・3.02%減少しました。また、一日最大配水量は 19,905 m³（7月8日）で、前年度 21,150 m³と比較して 1,245 m³・5.88%減少しました。

年間有収水量は、5,936,600 m³（16,264 m³/日）で、前年度 5,993,032 m³（16,419 m³/日）と比較して 56,432 m³（155 m³/日）・0.94%減少しました。

年度末における使用栓数は 26,454 栓で、前年度 26,445 栓と比較して 9 栓増加し、有収率は 89.27%で、前年度 87.39%と比較して 1.88 ポイントの増となりました。

ロ. 建設改良の状況

○ 水道改良費

主な改良工事として、梅の宮浄水場のろ過池洗浄方式変更基本設計及び詳細設計業務、仙台市との共同浄水場に係る送水管基本設計等業務の委託や仙台市への負担金を支出しました。

また、浄水工程で使用するジャーテスター、銀行との出納事務に使用するファームバンキング用パソコン、定期交換等に使用する水道メーター(20mm)を購入しました。

○ 第7次配水管整備事業

本事業は、ライフラインの強化と濁水発生箇所の解消及び有収率の向上と重要路線の耐震化を目的に、水道の安定供給を図るものです。実施期間は令和元年度から令和7年度までの7か年計画とし、給水区域内の布設後40年以上経過した配水管の布設替えを実施する事業です。

本年度は、赤坂、権現堂地内の2路線で口径150～250mm、総延長175.8mの配水管布設工事を行いました。また、錦町地内で既設管の撤去工事を行いました。

○ 第2次老朽管更新事業

本事業は、国の生活基盤施設耐震化等補助金を活用し、ライフラインの強化と管路の耐震化を目的に、令和元年度から令和7年度までの年次計画で給水区域内の布設後40年以上経過した送配水管の布設替えを行い、安定供給を図る事業です。

本年度は、清水沢、字伊保石地内の2路線で口径250～600mm、延長122.5mの送水管布設替工事を行いました。

ハ. 財政状況 * () 内は税込決算数値

収益的収入は、1,502,688,470 円 (1,641,655,951 円) で、前年度の 1,507,983,467 円 (1,648,499,268 円) と比較して 5,294,997 円 (0.35%) 減収となりました。

収益的支出は、1,592,284,721 円 (1,700,399,737 円) で、前年度の 1,441,441,884 円 (1,553,827,767 円) と比較して 150,842,837 円 (10.46%) 増加しました。

これは主に、旧上下水道部庁舎の処分に伴い、特別損失に 186,421,771 円計上したことによるものです。

これらの結果、89,596,251 円の純損失を生じ利益剰余金は 1,966,553,315 円となりました。

資本的収支は、総収入 283,883,567 円 (仮受消費税 0 円) に対し、総支出 720,702,188 円 (うち仮払消費税 31,410,100 円) となり、収入不足額 436,818,621 円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 31,410,100 円、過年度分損益勘定留保資金 25,687,121 円、建設改良積立金 379,721,400 円で補てんしました。

二. 経営指標に関する事項

令和7年度決算における経営成績について、経営の健全性を示す経常収支比率は、106.87% で、前年度比 2.31 ポイント増となり、健全経営の水準である 100% を上回っています。

一方、料金水準の妥当性を示す料金回収率は、前年度比 2.68 ポイント増の 100.27% となりました。

償却対象資産の減価償却の状況を示す有形固定資産減価償却率は、前年度比 1.19 ポイント減の 53.11% となり、法定耐用年数を経過した管路延長の割合を示す管路経年化率は、前年度比 1.86 ポイント増の 45.30% となりました。

また、当該年度に更新した管路延長の割合を示す管路更新率は、前年度比 0.20 ポイント減の 0.08% と減少しています。これは、老朽化した大口径の基幹管路の更新を優先的に実施していることによるものであり、年間の更新延長が伸びなかったためです。

今後とも、「安全」「強靱」のために計画的な施設更新に努めるとともに、健全な経営状況を「持続」します。

- ・経常収支比率 : 経営の健全性を示す指標
- ・料金回収率 : 給水に係る費用がどの程度水道料金で賄えているかを示す指標
- ・有形固定資産減価償却率 : 有形固定資産の減価償却がどの程度進んでいるかを示す指標
- ・管路経年化率 : 法定耐用年数を超えた管路の割合を示す指標
- ・管路更新率 : 当該年度に更新した管路延長の割合を示す指標

<経営指標の推移>

	R3	R4	R5	R6	R7
経常収支比率	124.07%	110.74%	108.27%	104.56%	106.87%
料金回収率	118.50%	104.50%	101.17%	97.59%	100.27%
有形固定資産減価償却率	47.68%	49.48%	50.29%	51.92%	53.11%
管路経年化率	38.74%	40.48%	41.72%	43.44%	45.30%
管路更新率	0.78%	0.41%	0.31%	0.28%	0.08%

